

鬼

の子作り

成人向け

presented by パイン[等速直線運動]

俺の里では
数年に一度

山の守り神に
里の若い娘を
生贄に捧げる

……今までは
そう思ってた
生きてきた

だからこれは
守り神に対しての
当然の御礼なのだ

山の平穏は
守り神によって
保たれており
俺達が日常を
生きられるのも
守り神のおかげだ



だが
以前の生贄は

俺と将来を約束した
百合子が
選ばれてしまった



その翌年
山崩れから
逃げ遅れた俺は

足腰を悪くして
まともに働けない
体になってしまった

愛する女を失い
一人前の男としても
役に立たなくな
った俺は

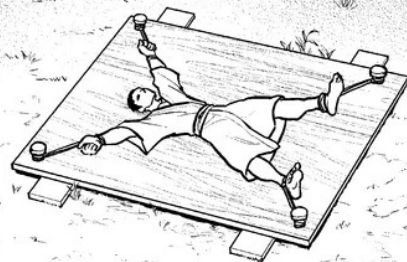
この里で
生きていく気力を
失った



せめて最期は
里の役に立ちたいと

今年の生贄に
志願した

生贄は
若者であれば
男でもよかった
はずだから



守り神に捧げられ
百合子と同じ場所に
逝けるのなら
それでいい



そう思っていた
俺の前に
現れたのは

巨大な
鬼だった





……他の妖は
儂のいる
この山に
近寄らぬし

動物は
儂の力を恐れて
大人しく
生きておる



里の守り神の
正体は……
鬼だったって
のか……!?



お前が今年の
生贄か
いけにえ



お……

鬼……!?



その結果として
お前達人間が
生き易いのであれば

結果的に儂は
お前達の守り神と
いうことにな
るだろうな

うわ



怖じぬ奴だな

今までの生贄は
泣いて命乞いをするか
恐怖に竦んで
動けなくなったものぞ

……



く……
く……
く……

離せ
鬼め!!



食う?

何を
言っておる



今更……
どっちでも
大して
変わらない



俺はもう
里で生きるのを
諦めたんだ



守り神の
生贄になるのも

鬼に
食われるのも

はああ!!



は...

お前はこれから
俺の仔を
産むのだ

オリ

鬼同士では
仔が作れぬ故

俺らは
他の生き物を
孕ませて
仔を作るが

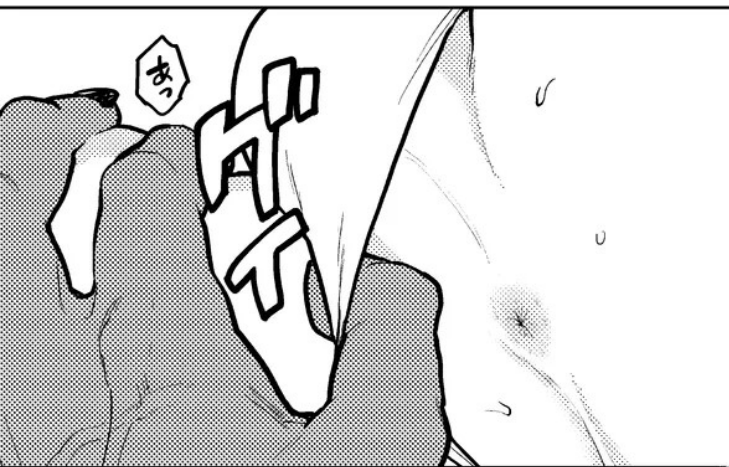
お前達人間は
俺らに姿形も近く
孕ませるのに
良いのだ

ば
馬鹿言うな

子など
作れるわけが
ない

俺は
男だぞつ

見れば
わかる



あ

魔羅の味を
知らぬ穴だな

狭く
慎ましい穴だ



や
やめろ



ケツん中
で

舌...

な中
やめ



ヒッ

あ
当たり前
だろう！

お前は
果報者だ

初めて知る
魔羅の味が

この儂の
魔羅に
なるのだからな

デ……

デカい……！！

こ……
こんなモノ……
入るわけが……

安心せい

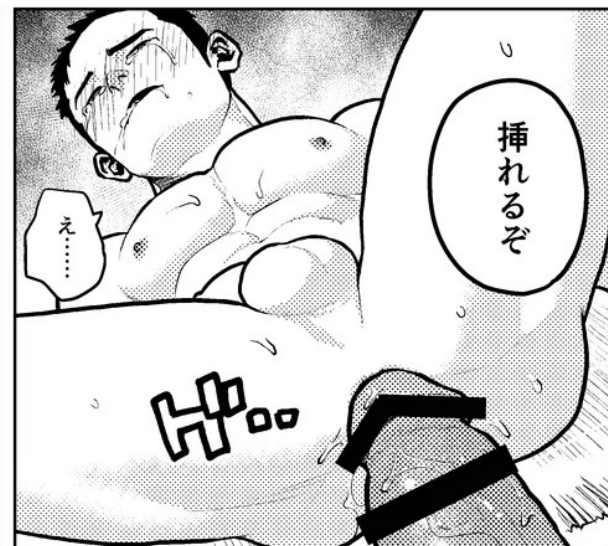
初夜で
いきなり
子作りはせぬ

よく味わい
覚えるがよい

これから
お前の肉壺を犯し
支配する魔羅と

お前の肚^{はら}に注がれ
お前を孕ませる
子種の味だ

まずは
儂の魔羅と
子種の味を
覚えさせてからだ





苦しいか

人間の肉壺は
僕の魔羅に比して
狭いからな

鬼の子種は
人間にとって
強い催淫効果
がある

だが
痛くはなからう

そのために先に
子種を飲ませた

鬼の力は
お前達人間の
常識など
容易く覆す

お前の体中に
俺の子種が
染み込む頃には――

肉壺は常に
俺の魔羅を
求めて疼き

はら
肚は俺の仔を
孕むための
孕み袋となろうぞ

初夜なのだし
加減して
やろうかと
思っていたのだが...

思いのほか
肉壺の具合が良く
つい十五回も
子種を注いで
しまったな

慎ましかった穴も
儂の魔羅の
大きさに
広がったか
不自由なく
子作りできるな

従順で愛い
肉壺だ

お前はこれから
何度も
孕ませてやる

何度も何度も
何度も何度も

お前は
この先
一生

儂の魔羅の
ことだけ
考えて
生きるのだ

それからは
毎日毎日

朝から晩まで
子作りをした

朝起きたら
まず魔羅をしゃぶり
小便と子種を
腹いっぱい飲み

子作り

子種を練り込み
まぶした飯を食う

飯の後は
また子作り

日中は野外で
子作りする
こともある

鬼が外に
出ている間に
少し昼寝をする

鬼が戻ったら
また子作り



魔羅をしゃぶって
子種で腹を
満たしてから



子種の味しか
しない
飯を食う



日が落ちたら
寝るまで子作り



子種と鬼の体臭が
染み付いた寝床で
魔羅の臭いを
嗅がされながら
眠る



寝る前には
一日中子種を
注がれた穴を
指や舌で
念入りに検分され

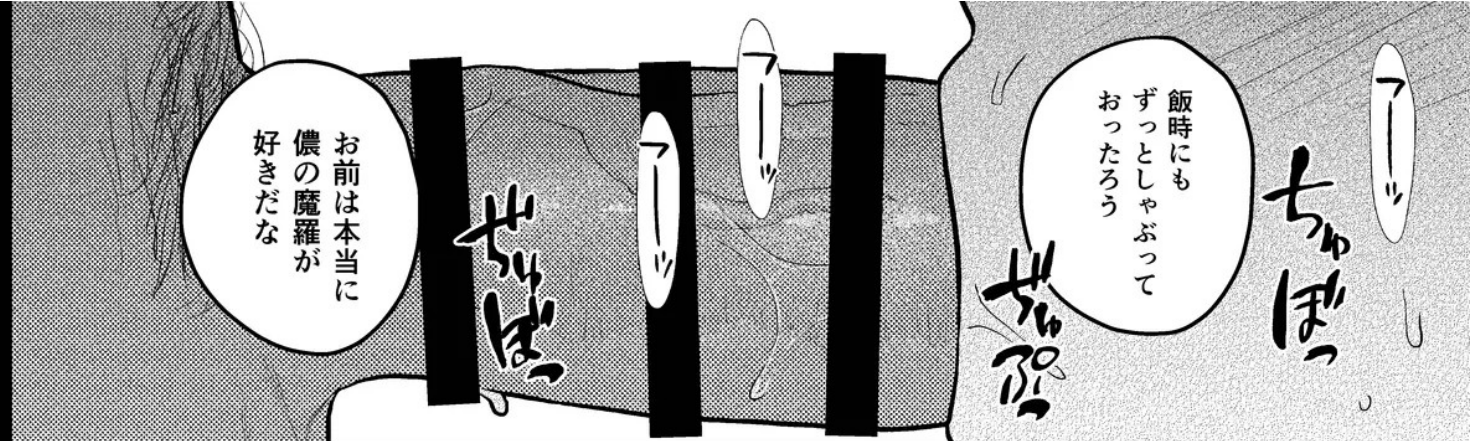
毎日毎日
毎日毎日
休みなく犯され
腹奥に子種を
注がれ続けた

いつしか俺の体は
鬼の言ったように
その子種を受け入れ
服従するように変容し

信じられないことに
子を為した

俺が孕んでも
子を産んだ後も
毎日の子作りは
変わらず続き

俺の腹は
鬼の仔か子種かで
絶え間なく
満たされ続けた



キャラクター設定ラフ







わからぬか

どう答えても
子作りが
終わらない

孕むまで
子種を注がれ
続けるのだ

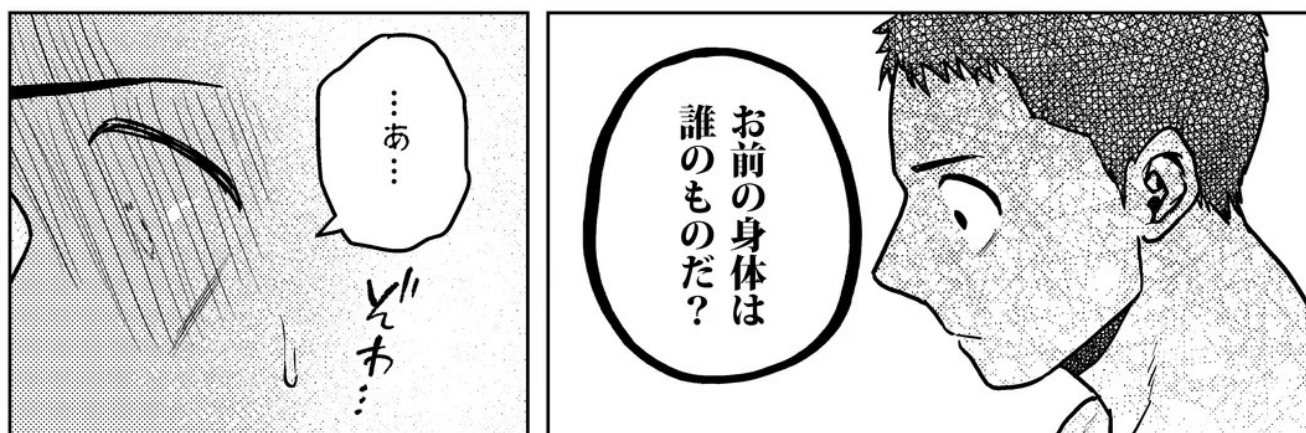
どうだ？

孕んだか？

孕むまで

ずっと

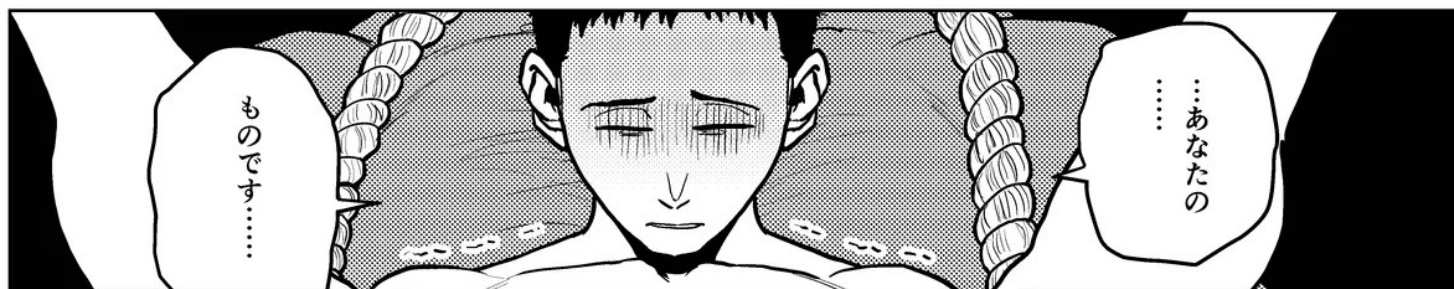






俺の…
身体は…

いえ……



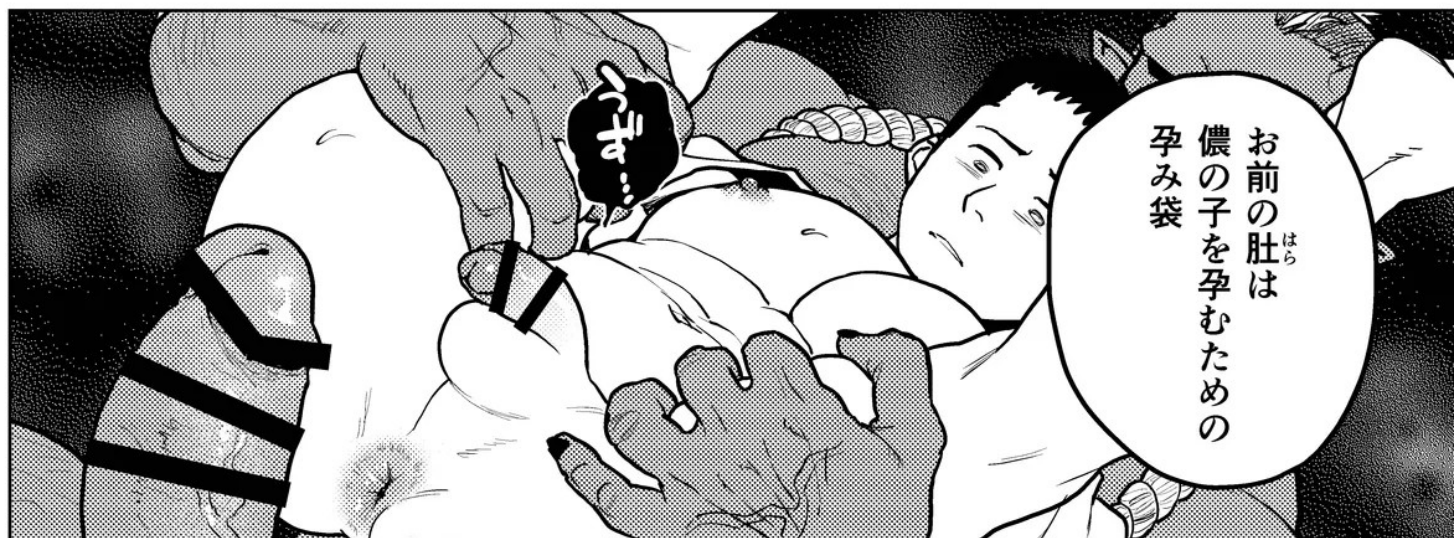
ものです……

……あなたの



そうだ

お前の肉体は
俺のもの



お前の肚^{はら}は
俺の子を孕むための
孕み袋



お前の尻の穴は
俺の魔羅を咥え込み
子種を注がれるための
肉壺

ぐはぁ……

すぁ……

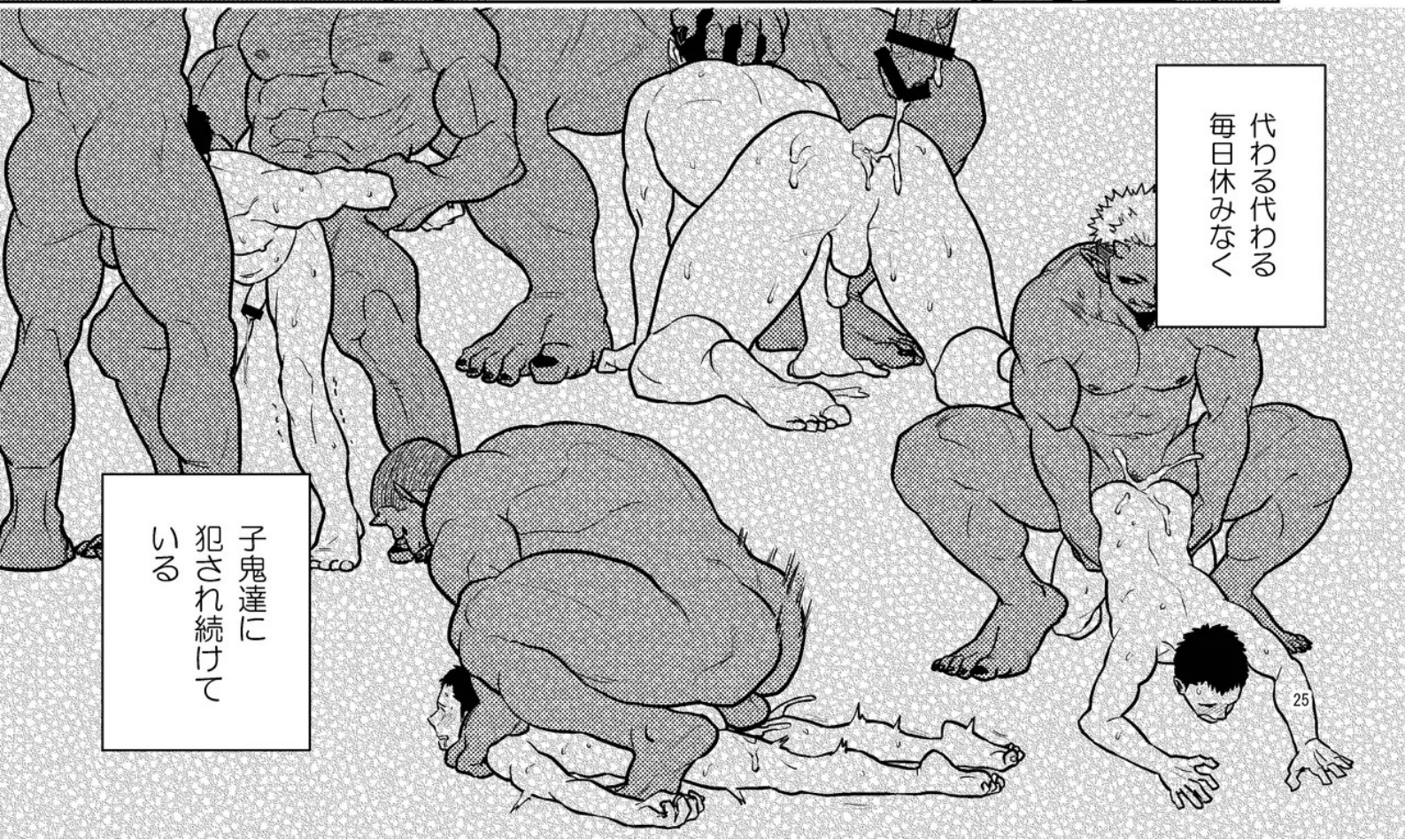


ずっと

孕め

孕むまで





一人目の子鬼の魔羅は
長く反り返っている

容易に腹奥に届き
掻き回し
突き上げてくる

二人目の子鬼の魔羅は
太く重い

出し入れされるたび
肚の中が魔羅に
押し潰されるのを
感じる

三人目の子鬼の魔羅は
大きさこそ一番小さいものの
凶悪なまでに血管が這い回り
とてつもなく硬い

肉壁が抉られるたび
気が狂いそうになる

俺の身体は
今

三者三様の
凶暴な魔羅の
有り余る性欲を
ただひたすら
注ぎ込まれるだけの

処理用の
肉穴だ

鬼の子の
性欲は強い

いきり勃った
魔羅は三日三晩
収まらぬ



……
どういふ……



便利なものよ

今は
お前を使うから
その必要も
あるまい



昔は人里から
適当に人間を攫ってきて
処理穴に使っていたが



俺が生贄に
されてからは
神隠しも生贄の風習も
なくなったのかも
もしれない

それなら
俺は

俺は——

父様

この人間
なかなか
孕ませぬ



村にいた時
ある日突然人が消える
「神隠し」が
起きることがあった

村の者は
山の神がお怒りなのだと
すぐに儀式を執り行い
生贄を捧げていた

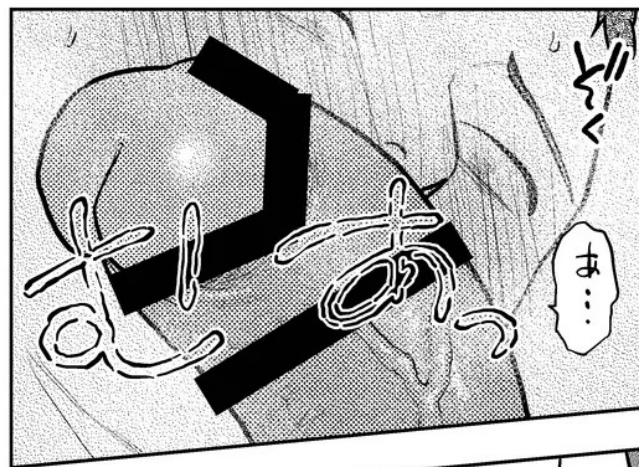
生贄を捧げると
確かに「神隠し」は
起きなくなったのだ



全部
溢れさせて
しまうのです



せっかく子種を
注いでやってる
のに





今宵は
久し振りに
俺と子作りだ

世

俺は

お前達も
よく見て
おくが いい

ギャッ

ムッ
ムッ

あー
乃ちむ

アッ
アッ

これが
鬼の子作りだ

鬼の子を産む
孕み袋

鬼の子種を注がれ続けた青年の肉体は、既に人間ではありません。
人間としての食餌も必要なく、鬼の子種を養分として生き永らえます。
孕むのに都合のよい状態の肉体として現在の姿で固定されたため、
この姿から年を取ることもありません。
鬼の妖力が在る間は、百年でも千年でも老いることなく、
孕み袋として生き続けるでしょう。

子種を注がれ、
孕み、

鬼の子を産み、
生んだ子の処理穴として犯され、
また子種を注がれる……
それを無限に繰り返す……

青年は一生、一日たりとも休む暇なく、孕み袋兼処理穴として、
半永久的に鬼の巨大な魔羅に犯され続けることでしょう。

でも、青年にとっては
それがこの上ない歓びであり、唯一の存在意義なのです。
青年は、鬼の子作りのための孕み袋なのですから。

インターネットへの全文転載、二次配布は
固くお断りします。

タイトル◆ 鬼の子作り
発行日◆ 2025年5月17日(初版)
サークル名◆ 等速直線運動
著者名◆ パイン
mail◆ pain@kingslime.sakura.ne.jp
X(旧Twitter)◆ ID:pppppppppq
Bluesky◆ @pppppppppq.bsky.social
pixiv◆ ID:3174475
印刷所◆ トム出版様

はじめまして。もしくはこんにちは。
パインです。

2024年に発行された体格差アンソロジー「BIG Brothers」に
寄稿したものに描き下ろしを追加しました。
前半が寄稿分、後半が描き下ろしです。

ファンタジー巨根、めっちゃ楽しかった。
これに慣れたら普通の巨根(?)描けなくなりそう。
子を産む時の話とか、子作りの手本として子の前で犯される話
とか、いろいろ考えてたんですが、時間が足りませんでした。
また機会があれば描きたいですね。

お前はこれから
僕の仔を
産むのだ

お前は今
僕の魔羅で
腹奥を突かれるのが
気持ち良くて
たまらんだらう

お前の吐は
僕の子を孕むための
孕み袋

お前はこの先
一生

どうだ？

今度こそ
孕んだか？

僕の魔羅の
ことだけ
考えて
生きるのだ

では
孕んだと
わかるまで
注いでやる